

2019-20 年度 RI 会長:マーク・ダニエル・マローニー / ガバナー:鈴木秀憲 / 会長:小椋 剛 / 幹事:野口一信
クラブ会報委員会 委員長:小池俊輔 / 例会日:木曜日 午後 12:30 開会 / 会場:ガーデンパレス

第2587回 2月第2例会 2月7日(金)

[山村武彦氏防災公開講演会]

- 点鐘 小椋 剛 会長
- 幹事報告 野口一信 幹事
- 国歌斉唱、ロータリーソング斉唱
- 出席奨励・スマイル委員会
- 四つのテスト唱和
- 点鐘 小椋 剛 会長
- 会長の時間 小椋 剛 会長
- 公開講演会(山村武彦氏)

点 鐘 会 長 の 時 間



小椋会長

本日の例会は10月第2例会の延期開催ですので、
第2587回となります。よろしくお願いします。

幹 事 報 告



野口幹事

本日の公開講演会は、本年度メイン事業となります
のでよろしくお願いいたします。

公開講演会会場では水色の襟をかけてください。

第1のセレモニーでの来賓は石井市長、講師山村様

出 席 状 況 報 告

T	正会員数	63 名
P	本日の出席者	35 名
本日の出席率		56%



司会 田島会員

13時より防災公開講演会を開催。

[山村武彦氏防災公開講演会 開会セレモニー]

公開講演会主催者挨拶



行田ロータリークラブ 小椋会長

皆さんこんにちは、行田ロータリークラブ本年度会長の小椋です。

本年度、行田ロータリークラブでは「共生」をテーマに掲げまして、防災について取り組んでおります。この度、行田市自治会連合会、埼玉浮き城プロバスクラブの皆様と共催によります、防災公開講演会を企画させていただきました。当初、昨年10月12日に開催予定でしたが、皆様ご存じのように、台風19号の直撃を受けまして延期となり、本日の開催となりました。

記録的な大雨をもたらしました台風19号は、自然災害の少ない行田に住む我々に防災に対する意識をさらに高めさせてくれたと思います。

本日、テレビ解説でお馴染みの防災システム研究所所長の山村武彦先生をお迎えし、講演をいただきます。皆様と共に防災に対する備えを再認識したいと思いますので、最後まで聴講よろしくお願いいたします。

結びになりますが、公務多忙のところご臨席賜りました石井市長はじめ、本日この講演会にご来場いただきました皆様に感謝申し上げまして、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

共催団体会長挨拶



行田市自治会連合会会長 阿久津彰男 様



埼玉浮き城プロバスクラブ会長 鴨田 武 様

公開講演会の共催団体である行田市自治会連合会阿久津会長、浮き城プロバスクラブ鴨田会長よりご挨拶を頂戴いたしました。

ご来賓挨拶



行田市 石井市長

昨年の台風19号で災害のあった行田市ですが、減災に向け取り組んでおります。本日の講演会を通じてますます行田市が安全な方向へ進めばと思います。

防災グッズ贈呈



目録贈呈：行田市内小学校 3,700 名の児童へ

贈呈した防災グッズは緊急ホイッスルライトです。災害時に倒壊現場などでホイッスルを使用し、自分の居場所を知らせることが出来ます。また、ライトは夜間やホイッスルが使用できない状況下での倒壊現場などで活躍します。

〔防 災 講 演 会〕



防災公開講演会 講師：山村 武彦 氏

〈講師略歴〉

1943年 東京都杉並区生まれ

1964年新潟地震でのボランティア活動を契機に同年、防災・危機管理のシンクタンク「防災システム研究所」を設立、所長に就任。

以来、50年以上にわたり、世界中で発生する災害（250カ所以上）の現地調査を実施。テレビ解説や日本各地での講演（3000回以上）をおこなう。また、多くの企業や自治体の防災アドバイザーを歴任。災害に強い企業、社会、街づくりに携わる、実践的防災・危機管理の第一人者として活躍中

テーマ： 大規模災害に備えて
～自助・近所・共助でつくる地域防災について～

山村先生ご自身の災害準備・・・

私にとって大事なのは自分や家族の命であり、災害時の備えとして水や食料は3か月分備蓄しています。

災害時に備蓄は水食糧3日分といわれますが、3日で水食糧がいきわたる災害は大規模災害とは言いません。大規模災害では最低1週間の水食糧が必要です。

新型肺炎コロナウィルスについて・・・

公衆衛生でなく防災危機管理で考えましょう。

防災危機管理では、致死率で捉え、他の感染症と比較してみるとよいです。その中で感染弱者の場合はどうか、対策はどうすべきなのか考えることが必要です。「咳エチケット」を心がけ、マスク、手指消毒、うがいを徹底しましょう。

台風、地震に備える・・・

- ・ブルーシート張り講習会（近所同士でやるとよい）
- ・車の水没を想定して車両保険の加入を検討。
- ・避難所が満員で避難できないときは友人、親戚宅も候補とする。流水流出、土砂災害が無ければ、在宅し2階での避難も考える。
- ・中小河川の洪水ハザードマップは無いので、氾濫災害を想定し対策を考える。
- ・自力で避難できない人（行田市も高齢化が進みこの状況が多くなる）のために隣近所で助け合う＝「互近助」、「防災隣組」の考えが重要
- ・地震保険への加入を検討。
（行田市内でも地震で液状化が想定されます、ハザードマップ、揺れやすさマップで確認しましょう）
- ・停電時に何が困るか想定しましょう。ATM はつかえませんか＝現金は必要。
- ・車の給油は半分ルール（常に半分になったら満タン）
- ・防災用品は期限があるので、年2回防災用品点検。
- ・タンパク質が補給できるもの（カレーやスープなど）を備蓄。
- ・仮設トイレ（コクヨ製）なども準備。

・避難所も安全ではない＝絶対安全は無いと考え、それぞれの地域で建物（避難所）の安全基準チェックシートを作成し、避難所の安全確認ができる体制づくり。

災害に対する訓練・・・

・正常性バイアスと凍り付き症候群にならないように明日災害がやってくると想定し、真剣に準備、訓練をしましょう。また、実際に地震が起きたときは小さな地震でも巨大地震と思い訓練すべきです。（緊急スイッチが入るように訓練）

＊正常性バイアス：自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価する事＝自分には大きな災害は無いなど都合よく考える事。

＊凍り付き症候群：災害時にショック状態に陥り、呆然として何もできない状態になる事。

・在宅避難訓練もしましょう。（避難所の環境は劣悪で亡くなる率は高い）＝1日電気、ガス、水道、電話なしで生活してみる訓練。

災害準備は悲観的に準備して楽観的に行動することが大切です。



公開講演会会場の様子

来場者400名と多くの方に公開講演会にお越しいただきました。



行田 RC 坂本会員から山村先生へ花束贈呈
素晴らしい講演をありがとうございます。



行田ロータリークラブ 小椋会長年度 メイン事業「防災公開講演会」を終えて
山村武彦先生と行田ロータリークラブ会員での記念撮影

（行田市商工センターホール2階）